

2015年2月10日

ジャカルタ ジャパン クラブ
会 員 各 位

ジャカルタ ジャパン クラブ
邦人安全対策連絡協議会

本協議会から最近の治安状況等についてお知らせいたします。会員各位ならびにご家族、また関係のご出張者におかれましては治安状況等に十分ご留意いただき、掲載の事件・事故と同様の被害に遭われないよう十分ご注意ください。

* J J C 邦人安全対策連絡協議会 TEL : 3 1 5 - 0 4 1 8
FAX : 3 1 9 2 - 5 9 0 2
* 在インドネシア日本国大使館 TEL : 3 1 9 2 - 4 3 0 8

1. 大使館からの挨拶

一般のISILの邦人人質殺害事件を受け、総理・官房長官・外務大臣より海外在留邦人の安全確保の更なる徹底を指示する発言が再三繰り返されているが、この指示に基づき、大使館としてもできる限りの措置を行っている。現時点では、インドネシア国内において邦人を標的とするテロ等の動きがあるとの情報には接していない。これまでのテロ事案の標的はインドネシア警察や欧米人が中心であり、当館では邦人がそれら事案に巻き込まれることがないように注意を呼びかけてきたが、今後は邦人も標的になりうるという認識をもってより緊密に情報提供に努めていきたい。

既に当館からは、日本人学校や日系工業団地など邦人が多くいる地区を重点的に地元警察等に対する協力要請を具体的に行っている。インドネシア側からは「現在のところ日本人へのテロ情報はないが、邦人の安全確保に一層配慮する。」との回答を得ている。

先月の協議会で紹介したとおり、4月下旬に予定されているバンドゥン会議60周年記念関連行事にはアジア・アフリカより109ヶ国の首脳が招待されているとのことで、世界的に注目される場となるであろうことから、インドネシア側も当然に治安・安全対策は強化するものとは思われるが、我々としても注意深く皆さんと情報共有しながら対応していきたい。

1. 最近の政治・治安情勢

(1) 政治情勢

国家警察長官の任命を巡りこの一ヶ月間のジョコウィ政権は大変混乱しており、その混乱に端を発して、汚職撲滅委員会（KPK）と警察の対立が再発した。1月9日にジョコウィ大統領が任期途中であったスタルマン国家警察長官を退任させ、後任に教育局長であるブディ・グナワン氏を任命した。グナワン氏はメガワティ元大統領の秘書官を務めていた経歴や汚職疑惑があったことから、この人事に批判が挙がったが、そのタイミングを計ったかの様にKPKはブディ氏を在職中の汚職容疑で容疑者に認定、ブディ氏の警察長官指名は国会で承認されるが、批判があがったことから、ジョコウィ大統領はブディ氏の長官任命を延期し、現警察副長官バドゥルディン・ハディ氏を長官代行に任命。これに対して国家警察側はKPK副委員長のバンバンウィジャヤント氏を弁護士時代の偽証容疑で捜査。更に他のKPKの各委員に対しても疑惑が各方面から示されている。この事で国家警察とKPK

の対立は今まで以上に深刻になっている。

ジョコウィ大統領が任命した9人の有識者による独立チームからもブディ氏の任命に反対との意見があがっており、今後のジョコウィ大統領の判断が注目される。

国内でのジョコウィ大統領の評価はメガワティ元大統領の操り人形ではないか、リーダーシップが不足しているのではないかと声がある。また、KPKを積極的に守ろうとしておらず、汚職撲滅の本気度が疑われている。KPKを嫌う政治家が多い中、今後も難しい舵取を迫られていくのではないかとと思われる。

(2) 治安情勢

インドネシア国内は比較的平穏であったが、シリアのISILによる邦人殺害事件において、この組織がビデオで今後世界各地で日本人襲撃を続けると宣言。これを日本政府も重く受けとめている。当館でもJJSの警備強化を管轄の警察分署に申し入れており、また、今後、国家警察本部担当部署へ赴き、インドネシア国内の邦人コミュニティーの安全確保の申し入れる予定。

現時点でインドネシア国内の少数のISIL支持者が日本人を狙っているという動きは見られないが注意が必要である。中部スラウェシ州ポソにおいてはISILを指示するテログループがあり、国家警察が機動隊を増員派遣してグループの検挙を行っている。また、西トゥンガラ州ビマはテロリストグループに関連する人物が度々検挙されている地区であり、両地区へ赴く際は細心の注意を払って頂くのと同時に、平素から出張者との連絡が取れるように連絡先を伝達しておくなどの安全対策をとっていただくようお願いする。

2. 邦人に関わる最近の事件・事故報告

邦人の巻き込まれる大きな事件事故の報告は受けてないが、盗難の被害が何件か発生している。パンク強盗が2件、車上荒らし、置き引きが1件ずつ報告されている。

- ・夕方帰宅のため一般道路を走行中にパンク、車外に出て電話中に車内に置いてあった鞆を盗まれた。
- ・昼間ブカシの一般道を走行中にパンク、自身で修理中に車内に置いてあった鞆を盗まれた。
- ・夕方ブロックM敷地内駐車場にて車内に置き忘れた鞆を盗まれた。オートロックが壊れていた為に鍵をかけ忘れた可能性もある。
- ・夕方バンドゥンからジャカルタへ向かう高速のサービスエリアにて食事をしていたところ、椅子に置いていた鞆を盗まれた。

これらの事例より貴重品はなるべく自分の体から放さないようお願いする。

3. 最新の医療事情等

(1) 毎年雨季の終わりにデング熱が流行する兆しがある。ジャカルタにおいても一旦発生すると大流行するため、蚊に対する対策をお願いしたい。

(2) 狂犬病について、インドネシアではバリ島、スラウェシ島を中心に年間100名以上死亡している。ジャカルタでは感染の報告は殆どないが、この1ヶ月間に西カリマンタンに集中して発症例みられる為、当地や地方へ赴く場合は野犬に注意するようにしてほしい。発症した場合100パーセント死亡すると言われていたが、発症をワクチンで防ぐことができる。犬に噛まれた時はすぐに病院でワクチンの接種をするように徹底してほしい。また、狂犬病の感染は犬だけかとの問い合わせを受けることもあるが、狂犬病のウィルスは唾液で感染すると言われており、猫も感染する可

能性がある。

4. 質疑応答、各社（団体）からの報告等

（質問1）

インドネシアには少数ながらISILを支持するグループがあるとの話であるが、これに対して政府はどのような対応をしているのか。

（回答）

政府はインドネシア国内でISILの活動を認めないとの立場を明らかにしており、各種の予防活動を通じてISIL支持グループを抑え込んでいる。

（報告）

当社としては外部のリスクコンサルタントと契約しており、職員にはコンサルタントからの情報をチェックするように指導している。また内部対応としては緊急事態に備えて連絡体制のチェックや有事の際の動きを確認している。、ただし、風評などに流されないように、正確な情報の収集に努める程度にとどめている。

（報告）

当社では、店舗の警備強化は行ったが、その他対応としては緊急連絡網をアップデートしたところに留めている。出張者、職員には繁華街への夜の外出を控えるよう指導している。

（質問2）

昨今は日系企業の工場開所式・竣工記念パーティなどが重なっているが、各社においてホテルでの祝典中止などイベント等の自粛を検討している、あるいはそのような動きがあると聞いた、といった情報があれば伺いたい。

（回答）大使館

現状インドネシアでは日系企業・邦人を対象としたテロの動きなどの情報には接しておらず、差し迫った状況にはないと認識している。一方で、「イスラム国」による事件は重く受け止めており警備の強化などできる限りの対策をとる必要がある。ただ、今回の事案を受けイベントを中止する動きが続くなど極端に収縮してしまうのはテロリストの思う壺であり、テロには屈しないという姿勢を示していくことも重要である。その運営にあたっては警備を強化するなどきちんと対応していく必要がある。

（報告）

先月初めに米国、豪州がスラバヤの危険情報を上げたが、その後何か新しい情報があればご教示ありたい。

（回答）大使館

国家警察も、大統領もスラバヤに問題はないと言っている。その後、米国、豪州ともに危険情報

に新たな情報はなく、沈静化してきたのではないかと思う。

(報告)

洪水による被害が出ており、業務にも影響が出てきている。特に北ジャカルタ地域は洪水が広がっており、交通には注意が必要。

また、警察庁長官指名をめぐる国家警察と汚職撲滅委員会との対立により、警察長官も不在が続き、治安面にも影響しないか注目している。

(質問)

ウスマン国家テロ対策庁長官によるとインドネシアから出国したISILメンバーが206名いる可能性があるとの事だが、人数には様々な情報があり情報源により誤差が大きいように見える。また、インドネシアに帰国している人数も公表していない。政府はどのくらい把握出来ているのか。

(回答)

ISILからインドネシアに戻っている人もいるとの情報はあがるが、具体的な帰国者数に関する情報には接していない。現在まだシリアでの戦闘状態であり、即座にインドネシアでのテロの危険性が高くなるとは言えないと思われる。

今回のISILの事件を受けて日本人学校も標的にされる可能性を意識することが重要ではないか。他国のインターナショナルスクールも参考にしながら、JJSの警備強化も検討できないか。

対策を取るにあたっては、逆に生徒や保護者の不安を煽らないように配慮することも必要である。

(報告)

シリアでの邦人殺害事件後インドネシア人観光客の日本への渡航に大きな変化はなく、この事件による影響は見られない。

(報告) J J S

ISILの邦人殺害事件を受けてジャカルタ日本人学校では現在のところ、職員の意識を高めつつも生徒や保護者の不安を煽る事のないように通常の対応をしている。子供達がネットでISILによる邦人殺害の画像を見てしまうことに対する対策も必要と思われる。

又、1月29日に警察へ安全確保を要請を行った上で、入学受付もあることから、JJSホームページは通常通り公開している。

次回、海外邦人安全対策連絡協議会は、2015年3月10日(火)午前11時から。